

## 流行り謡にみる政権移行期の中国社会

岡 益 巳

### 1. 序

岡[1995]では、一九七八年の現代化路線の採用から一九九四年の鄧小平の完全引退までを鄧小平の時代と認識し、同時期の流行り謡を収集分類することによって、民衆の目線のみた中国社会の現状を明らかにした<sup>(1)</sup>。特に、経済開放政策の進展に伴い顕在化しつつあった党・政府幹部の腐敗の蔓延、拝金主義の横行、貧富の格差の拡大、農村の疲弊、治安の悪化などの社会的諸矛盾について、適宜具体的な事例を踏まえつつ指摘した。

岡[1997]では、岡[1995]で十分言及し得なかった次の二点に関して解釈を試みた。すなわち、①開放政策下の流行り謡をとりまく政治的、社会的環境の特質、②流行り謡に託した民衆の本音の所在である。すなわち、流行り謡をとりまく環境の特質が、1)貧富の格差や役人の腐敗などの社会的矛盾の拡大、2)流行り謡のマスコミ報道解禁(制限付き容認)であることを指摘し、かつ、この二つが一九八〇年代後半から九〇年代半ばにかけての空前の流行り謡ブームを生みだした要因であることを明らかにした。また、流行り謡に託した民衆の本音の所在に関しては、次のような結論を得た。すなわち、開放政策を目の当たりにし、多少なりともその恩恵にあずかった民衆は、社会的不平等や役人の腐敗に対して不満を抱きつつも、直接的な反政府行動に出ることを避け、流行り謡を口にすることによってストレスを解消している。民衆は経済の開放が遠からず政治改革をもたらすであろうことを予感しており、共産党政権の急速な崩壊により極度の社会

的混乱が生じた旧ソ連や東欧の轍を踏むことは望んでいない。

本論では、主として一九九五年及び一九九六年に流行った謡を取り上げてみる。鄧小平が政治の舞台から完全に身を退いたのは一九九四年九月の四中全会（第十四期中央委員会第四回全体会議）においてのことであり、一九九七年二月十九日に至って九十三歳で逝去した。したがって、九四年秋から九七年初頭にかけてはまさに鄧小平政権から江沢民政権への実質的移行の時期であった。この間に江沢民を中心とする上海閥による北京閥の追い落としが実行され、王宝森・北京市常務副市長の自殺事件が発生した。そして、この事件によって、高級幹部の間に極度の腐敗が蔓延している事実を改めて知らされた民衆は、特権階級に対する不満と怒りを新たにした。党中央は党に対する民衆の信頼回復にやっきとなっているが、流行り謡でみる限りではその試みは失敗に終わっている。

岡[1995]においては、党・政府幹部の腐敗を風刺した謡が最も多く、全体の約六割を占めるが、その中でも特に多かったのは彼らの公費による飲み食いを批判したものであった。一方、今回収集した謡で目をひくのは、党・政府幹部の性的モラルの墮落に言及した内容のものが非常に多い点である。これは、高級幹部たちが権力にまかせて愛人を囲ったり、性的な接待を受けたりする風潮が目にする社会現象となった事実を反映している。この小論では、鄧小平政権から江沢民政権への移行期における中国社会の現状の一端を、流行り謡を切り口として明らかにすることを試みたい。

## 2. 王宝森と孔繁森

### 2. 1. 汚職幹部王宝森と模範的幹部孔繁森

未曾有の規模の経済犯罪にかかわって自殺した王宝森・北京市常務副市長は今や汚職幹部の代名詞である。他方、少数民族のために献身的な努力

をし、不慮の事故死を遂げた孔繁森は党中央によって改革開放時代の模範的幹部に祭り上げられた。

度重なる反腐敗運動にもかかわらず、党・政府幹部の腐敗現象は下火になるどころか、収賄の手口が巧妙化するなど、ますますひどくなってきている。党中央は国民の党に対する不信感の高まりに苦慮し、信頼回復を目指して華々しく「孔繁森に学べ」運動を推進しているが、庶民の反応は今一つである。

相反する典型的人物である王宝森と孔繁森は名前の最後の一字がともに「森」であることから、語呂のよい流行り謡が生まれやすく、一九九五年の夏以降、この二人を対比した流行り謡が北京の巷に溢れ出した。これらの流行り謡を理解するための若干の背景説明を第二節と第三節で行う。

- (1) 大干部学王宝森,  
 小干部学孔繁森. (鏡-95-9)  
 大幹部は王宝森に学び  
 小幹部は孔繁森に学ぶ
- (2) 现在共产党有两个“森”,  
 干部嘴里说学孔繁森,  
 心里却想学王宝森. (九-95-9)  
 いま共産党には二つの「森」がある  
 幹部は口先では孔繁森に学ぶと言うが  
 でも本音は王宝森に学びたい
- (3) 一个孔繁森倒下去,  
 千百个王宝森站起来. (九-96-3)  
 一人の孔繁森が倒れれば  
 百人千人の王宝森が立ち上がる
- (4) 老百姓学孔繁森,  
 干部学王宝森. (九-96-3)  
 庶民は孔繁森に学び

幹部は王宝森に学ぶ

(5) 白天学习孔繁森,  
晚上学习王宝森. (鏡-96-12)

昼間は孔繁森に学び

夜は王宝森に学ぶ

幹部連中は、昼間は上からの指示で、もっともらしく孔繁森に関する学習会などに参加するが、夜になれば相変わらず宴会やダンスなどに興じている。

## 2. 2. 王宝森事件

一九九五年四月四日、巨大な汚職事件の黒幕の一人と目されていた北京市常務副市長・王宝森が北京市郊外の怀柔県の山中でピストル自殺をした<sup>(2)</sup>。王宝森は陳希同・元北京市党委員会書記・元中央政治局員の忠実な部下として、北京市の財政、税務などを分掌管轄するとともに、北京市計画委員会主任を兼務し、北京市の開発計画を取り仕切っていた。江蘇省無錫で発覚した三十三億元に上る違法な資金集めに関与していたことが明かとなり、中央紀律検査委員会の追求の手が伸びてきた。また、北京市の繁華街王府井の東方広場開発計画に伴い香港の富豪・李嘉誠から巨額の賄賂を受け取っていた事実も判明した。

中央紀律検査委員会が同年七月に明らかにした王宝森の経済犯罪事件の内容は次の通りである。(蘇紹智[1995]p.57)

- 1) 一九九三、九四年に公金二十五万五千人民元及び二万米ドルを横領した。
- 2) 一九九三、九四年に公金一億五百万余元及び二千五百万余米ドルを流用した<sup>(3)</sup>。
- 3) 違法に八十三件の貸付を決裁し、六十五億元及び二・二億米ドルを貸し出した。

- 4) 二億一千三百万元を浪費し、二十五棟の豪華な別荘を建て、九十八戸の高級マンションを購入した。その多くは幹部及び幹部の家族に賄賂として用いたり、市委員会常任委員の家族及び退職幹部の家族への贈り物とした。
- 5) 二十万弱香港ドルを流用し、駐香港中国機関を通じて香港で二棟の別荘と三戸の高級マンションを購入した。
- 6) 北京、天津で長期にわたり高級ホテルの八つの部屋を借り上げ、関係の深い人の歓楽に供した。
- 7) 職権と金銭供与によって二十二人の女性を弄び、そのうちの十五人を政府部門、金融、貿易、ホテル等の職場に配置し、科長、処長、副主任、副総経理などの職務を担当させた。

党中央は王宝森の犯罪の事実をどのように社会に公表するかを苦慮し、同年七月四日午後六時半のラジオ、テレビを通じてやっと全国に伝えた。一般黨員に対してはその二時間前に所属機関を通じて文書で同様の内容が伝えられた。(明蕾[1995]p.28)

### 2. 3. 改革開放時代の模範的幹部・孔繁森

一九六三年以来、党と毛沢東に対して絶対的な忠誠を示した解放軍兵士の雷鋒が模範的な人物として讃えられ、繰り返し「雷鋒に学べ」運動が展開されてきたが、王宝森事件前後から雷鋒に代わって改革開放時代の模範的幹部・孔繁森に学ぶ運動が推進されるようになった。党中央組織部と宣伝部は一九九五年四月十四日、党の各級の支部に対して、孔繁森に学ぶ運動を展開するよう指示した。

一九九五年七月四日の王宝森事件の公表に先だって、六月三十日、中央組織部は百名の優秀県(市)委員会書記を表彰した。その夜、中南海では『孔繁森の歌』が上演され、それらの様子はラジオ、テレビ、新聞、雑誌を通じて大々的に全国に報道されが、これは王宝森事件のマイナスイメー

ジを減らすためであった。(明蕾[1995]p. 28)

孔繁森に関するいくつかの報道を総合してみると、次のような人物であったことがわかる。孔繁森(死亡当時五十歳)は山東省出身の地区級幹部であったが<sup>(4)</sup>、故郷に三人の子供と妻を残し、一九七九年から二度に渡って通算十年間チベット自治区で勤務した。チベット自治区阿里地区党委員会書記であった孔は地区内を巡回し、貧困家庭に毛布やポケットマネーを贈ったりするなど、献身的に働いた。一九九四年十一月に交通事故に遭い死亡したが、ポケットの中には八元余りしかなかったという。

しかしながら、孔繁森が多くの孤児を引き取り養育し、カネが足りない場合には売血まで行っていたと絶賛する中国国内の報道に対して、学び難い行為であると異議を唱える向きもある<sup>(5)</sup>。

### 3. 前途多難な江沢民政権

#### 3. 1. 収まらない社会的腐敗

一九九四年末から翌九五年初めにかけて、陳希同、李其炎、王宝森、張百發などの秘書たちが経済犯罪に関与した疑いで摘発された。一九九五年二月十四日には周冠五・首都鋼鉄総公司会長が引退(実質解任)、その前日には息子の周北方・首鋼控股会長が経済犯罪にかかわった容疑で逮捕された。ポスト鄧小平をにらんだ江沢民の体制固めは着々と進んでいるが、改革開放政策がもたらした様々な社会的歪みは深刻化の一途を辿っており江沢民政権の前途は多難である。

#### (6) 不反腐败, 亡国;

反腐败, 亡党. (九-96-3)

反腐败闘争を行わなければ国が減びる

反腐败闘争を行えば共産党が減びる

腐敗撲滅運動はやらないわけにはいかないが、余りにも多くの党幹部が腐敗しているため、徹底して行えば党そのものの存在が危うくなってしまふ。

幹部たちの公費による飲み食いを止めさせることのできない党・政府を次のように嘲笑した謡もある。

(7) 打下九百六十万平方公里的人民天下，

就管不住一张嘴。 (鏡95-10)

九百六十万平方キロの人民の天下を治めているのに

口一つさえも管理できないのか

(8) 三十六个红头文件堵不住一张嘴。 (三菱<sup>(8)</sup>)

三十六度の党中央の通達は口一つ塞げない

党中央の通達文書は，“刊頭”すなわち、題名、号数、発行月日などの部分が赤い字で印刷されており、俗に“紅頭文件”（頭の部分が紅い通達文書）と呼ばれている。これまでに三十六回も公費による飲み食いを禁止する通達が出されたにもかかわらず、一向に収まる気配がない状況を揶揄している。

汚職幹部の言い分は、当然次のようなものである。

(9) 大家都在捞，

不捞白不捞。 (鏡-95-11)

みんながうまい汁を吸っている

うまい汁を吸わなければ損だ

一九九五年四月三十日、中央弁公庁と國務院弁公庁は『党と国家機関の職員が国内の交際で受け取った贈り物に対して登録する制度に関する規定』及び『党政府機関の県（処）級以上の指導幹部の収入申告に関する規定』を出したが（秋子[1995]p. 35）、効果のほどは期待できない。

### 3. 2. 陳希同の失脚

一九九五年四月二十七日、陳希同が北京市党委員会書記が辞任に追い込

まれ、後任には政治局員の尉健行・中央紀律検査委員会書記が選ばれた。陳希同は王宝森の汚職に関与している事実が判明したため、同年九月の第十四期五中全会において中央政治局員をも解任された。陳希同を初めとする北京市の高級幹部の腐敗ぶりは市民の注目を集めた。

(10) 北京市党委成員,

全是貪污犯,

斃了再查也不冤. (朝日<sup>(7)</sup>)

北京市党委員会のメンバーは

誰も彼もが汚職の犯人

死刑の後で再調査しても冤罪などありはしない

五中全会の報告によると、陳希同は次の四つの誤りを犯したとされる。

1)甚だしい職務怠慢で、王宝森の犯罪活動に重大な責めを負う。2)腐敗墮落し<sup>(8)</sup>、生活が奢侈で、多額の公金を浪費した。3)職権を利用し、一部の者のために違法な利益を謀った。4)職務及び公務活動の際に、立場を利用して大量の高額な贈り物を受け取った。(荀踐[1995]pp. 28-30)

(11) 陈希同死不了,

张××跑不了,

李其炎干不了,

尉健行长不了. (鏡-95-12)

陳希同は死にきらない

張××は逃げきれない

李其炎は仕事をまっとうできない

尉健行は長続きがしない

北京市ナンバーワンの党委員会書記を実質解任された陳希同であるが、北京市民は彼が“死不了”，すなわち、完全に政治的生命を抹殺されてしまうことはない、とうたっている。事実、陳希同は一九九五年九月には政治局員も解任されたが、刑事処分は行わず党籍も剥奪しないことが一九九七年一月末に最終処分として決定された。ただし、この最終処分の決定は



国民感情に配慮し、公表されないという（一九九七年一月三十一日付『朝日新聞』）。張××とは、北京市筆頭常務副市長の張百發を指しており、すでに検挙された彼の秘書同様に経済犯罪に関与している可能性が高く、司法の追求の手から逃れるのは難しい、と皮肉っている。この謡は一九九五年の夏から秋にかけて流行ったと推測されるが、当時北京市長であった李其炎は結局翌九六年十月二十九日に更迭され、労働部党書記に降格された。代わって、賈慶林・福建省党委員会書記が市長代理に任命された。これに先だって、九五年十一月には、江沢民に近い人物と目される金人慶・國務院弁公室副秘書長が副市長に選ばれている。上海閩の江沢民にとって、党中央の威光に従わない北京閩は眼の上のこぶであり、王宝森事件を契機にその勢力を一掃し、自らの政権の安定、強化を謀ったものと思われる。陳希同の息のかかった幹部が多数存在する北京市において、江沢民の意を受けて市党委員会書記に就任した尉健行の立場は難しい。事実、中央紀律検査委員会書記を兼任し、北京市幹部の汚職一掃に真っ向から取り組んだ尉健行であったが、一九九七年初めに健康と仕事への「圧力」を理由に中央紀律検査委員会書記の辞職を申し出、同年四月に党中央の同意を得た。また、最高人民検察院のトップである張思卿・検察長も同年四月に辞職した。

駱柯稻[1997]によると、北京の巷では、次のようなうわさが囁かれている。「陳希同はすごい。あれほど大きな汚職事件に関与していながら、免職になっただけで、刑事罰も党内処分も受けていない。逆に、彼の事件のおかげで、中央紀律検査委員会と最高人民検察院のトップの二人が引きずり倒されてしまった。」(p. 22)

### 3. 3. 江沢民への評価

一九九七年二月の第八期全国人民代表大会第五回全体会議の前後に、北京では次のような謡が流行った。

- (12) 毛泽东让我们下放,  
邓小平让我们下海,  
江泽民让我们下岗. (九-97-4)

毛沢東は我々を農村へ行かせ  
鄧小平は我々にカネ儲けをさせたが  
江沢民は我々を失業に追いやる

“下放”は、文革中に毛沢東の発動で、都市の青年や幹部が農村へ行き、思想改造や労働鍛錬を行ったことを指す。“下海”は、開放政策の中で公務員が職を投げうって、実入りの良い商売に転じていくことを指す。“下岗”はレイオフ（一時帰休）のことであり、国有企業の半数以上が赤字といわれる現在、多くの従業員がレイオフの対象となっている。郭啓[1997]によると、政府発表の数字で、都市部の失業登録者数が約五百万人、生産停止・半停止状態の企業の従業員が八百万人あり<sup>(9)</sup>、このほかに国有企業の余剰人員が三千万人存在する(p. 21)。

一九九六年には次の謡が流行った。

- (13) 毛泽东开天辟地,  
邓小平卖田卖地,  
江泽民谈天说地,  
老百姓喊天叫地. (争-96-9)

毛沢東は新しい世を切り開き  
鄧小平は田畑を売ってくれたが  
江沢民はよもやま話をするだけで  
庶民は苦しみを訴えている

毛沢東が「新しい世を切り開いた」のは、革命を成功させ、新中国を建設したことである。鄧小平が「田畑を売った」のは、生産責任制の導入に伴い、農民に土地の専有権を分配したことを指している。江沢民は一九九六年に入って、“讲学习，讲政治，讲正气”（学習を重んじ、政治を重んじ、正しい気風を重んじる）という方針を打ち出し、各級の幹部に対して、特

に、学習を重んじることを要求した。これに対して、現在中国には緊急に解決を要する問題が山積みとなっており、学習よりも行動が要求されるべきだ、との反論も出ている。“讲”（重んじる）には「しゃべる」の意味もある。したがって、“谈天说地”は江沢民の「学習を重んじる」という方針に対する批判である。この謡は、毛沢東や鄧小平には行動力があつたけれども、江沢民は口先だけで何もやらないので庶民は困っている、と江沢民を風刺している。

一九九六年七月に発表された新華社などの調査報告によると、北京、天津、上海、深圳のいずれの市民もその八十%台が鄧小平後の中国で混乱や動乱が発生する可能性があるかと危惧している（黎自京[1996]p. 13）。動乱の可能性が大きいのはチベット自治区と新疆ウイグル自治区であり、民族問題の様相を呈しており、江沢民の手腕が問われる。

#### 4. 当世役人気質

##### 4. 1. 四つの基本原則

次に取り上げる「基本的に～」という謡は一九九〇年代初期までは余り見受けられなかったもので、公費の飲み食いなどの腐敗現象に加えて、高級幹部を中心に性的モラルの崩壊が顕著な社会現象となっていることを示唆してくれる。

- (14) 吃饭基本有人请,  
 喝酒基本有人敬,  
 工资基本不用,  
 老婆基本不动. (鏡-95-9)  
 食事は基本的に招待してもらう  
 酒は基本的に飲ませてもらう

給料は基本的に使わない

女房には基本的に手を触れない

公費の宴会を開いたり接待を受けたりすれば、飲み食いにカネがかからない。その上、職権を利用してほしい物を手に入れるのであればカネを払う必要はない。また、外で女遊びをするので古女房には手を触れない。次のようなヴァージョンもある。

(15) 烟酒基本靠送,

吃喝基本靠贡,

工资基本不动,

老婆基本不用. (鏡-96-9)

酒やタバコは基本的に贈り物でもらう

飲み食いは基本的に接待してもらう

給料には基本的に手をつけない

女房には基本的に手を触れない

(16) 吸烟基本靠送,

喝酒基本靠贡,

工资基本不动,

老婆基本不用. (争-96-2)

タバコは基本的に贈ってもらう

酒は基本的に献上してもらう

給料には基本的に手をつけない

女房には基本的に手を触れない

#### 4. 2. 性的モラルの崩壊

高級幹部の女性関係の乱れはひどく、次のような謠も流行っている。

(17) 坐奥迪, 持小蜜. (鏡-95-9)

アウディに乗って 愛人を連れて

アウディはフォルクスワーゲン社と合併の長春第一汽車工場で生産されている。“小蜜”は英語のMissの音訳“蜜司”からきており、若い女性のことである。高級幹部の中には愛人同伴で会議や出張に出かける者が目につく。

(18) 内部稳定, 外部搞活. (鏡-95-9)

女房は家庭にとどめおき 自分は外で浮気三昧

この謡も幹部の私生活の乱れを揶揄している。

(19) 官人一卡,

女人一拉,

一切OK. (鏡-96-4)

役人が邪魔立しても

女がちょっと袖を引けば

全てがOKだ

役人に難癖をつけられたときは女性を接待に用いればよい、としている。事実、企業の中には特殊な接待要員としての「スペシャリスト」を大金を積んで求めたり、自前で「秘密兵器」を養成したりするところもあるという。この謡の各句末の語をつなぎ合わせると“カラOK”（カラオケ）となり、折込川柳風の仕立てになっているところが面白い。また、数字の一を繰り返し用いており、非常に語呂がよい。

特権階級の腐敗に満ちた日常的な行動を揶揄した、次のような謡も存在する。

(20) 拷小蜜,

看真技,

洗头发,

搞帕替. (鏡-96-12)

愛人を連れて歩く

裏ビデオですごい技を鑑賞する

いかがわしいヘアーサロンへ行く

### 乱ちきパーティを開く

“真技”は、ポルノビデオで延々と演じられる男女の絡みのこと。“洗头发”は「頭髪をシャンプーする」という意味ではなく、風俗営業の店へ行くこと。一九九五年の初頭に、風俗営業店である“歌舞厅”（ビキニの女性がサービスしてくれるダンスホール）が厳しい取り締まりを受けたため、それらの店は続々とヘアサロンに衣替えした。現在、中国の各都市ではやたらヘアサロンの看板が目につくが、風俗営業の店であることが多いのはこのためである。昼間は一応シャンプーをしたりしてまともに営業しているが、夜になると風俗営業店に早変わりしたり、店の一階では看板通りの正業を行い、二階、三階では特殊なサービスをする店とか、様々あるとのこと。党・政府幹部の場合、こうしたお遊びの代金をポケット・マネーで支払うことはなく、全て経費で落とす。“帕替”は英語の party の音訳であるが、普通のパーティではなく、いかがわしい余興つきのものである。例えば、“瞎子摸象”（目の見えない人が象をなでる），“抢新娘”（花嫁をかっさらう），“拉郎配”（男を引っ張ってきてペアになる）といったゲームに興じるそうである。（亦兵[1996]pp. 13-15）

### 4. 3. 仕事ぶり

高級幹部が出張に出かけるさまは、まるで大名行列である。

(21) 出则前呼后拥，警车开道；

住则豪华宾馆，服务配套；

食则山珍海味，烟酒全报；

去则土特产品，大包小包。（鏡-95-9）

お出かけの際は大勢のお供を従えて、パトカーが先導する

お泊まりは豪華なホテルで、サービスはばっちり

食事は山海の珍味で、酒やタバコは全て経費で落とす

お帰りの際にはお土産がいっぱい、大きな包みに小さな包み

幹部が現場視察に来れば、タダで飲み食いするばかりか、多くの特産品などを土産に持ち帰る。次の謡は皮肉がよく利いている。

(22) 只吃不帶，作风正派；

又吃又帶，不算意外；

不吃不帶，才叫奇怪。（鏡-96-9）

飲み食いするだけで土産を要求しないのは立派な態度

飲み食いした上に土産を持ち帰るのは当たり前

飲み食いもせず土産も持ち帰らないのは変だ

(23) 上午随着轮子转，

中午围着杯子转，

下午围着骰子转，

晚上围着裙子转。（鏡-96-9）

午前中は車でぐるぐる回る

お昼は宴席の周りをぐるぐる回る

午後はマージャン卓を囲んでぐるぐる回る

夜はスカートの周りをぐるぐる回る

午前中は高級車で現場視察，昼は宴会でしこたま酒を飲み，午後はマージャンにうつつをぬかし，夜になると「お色気産業」から派遣された女性などとダンスに興じる，といった内容。宴会，ダンス，マージャンが党・政府幹部の間で顕著であることが次の謡からもわかる。

(24) 酒杯碰得天地晃，

裙子舞得心花放，

方城垒得大天亮。（半-97-6）

グラスがぶつかり天地が揺れる

スカートが舞って心が弾む

マージャン牌を積み夜が明ける

“方城”はマージャン牌を積んだ形を示している。マージャン狂いの幹部は珍しくなく，各地に「マージャン書記」とか「マージャン主任」とかあ

だ名される幹部がいる。

(25) 打牌, 一晚两晚不睡,  
跳舞, 三步四步都会,  
吃席, 五瓶六瓶不醉,  
泡妞, 七个八个不累. (争-96-2)

マージャンとなれば一晚や二晩は眠らない  
ダンスとなれば三拍子でも四拍子でもみな踊れる  
宴会となれば五本や六本の酒では酔わない  
女遊びとなればと七人でも八人でも疲れない

巧みに数字を織り込んだ、この種の謡は八〇年代末からかなり広範に流行り、岡[1995]でも十種類を超えるヴァージョンを紹介した。この謡のように遊びに長けた幹部は“风流干部”と呼ばれている。

#### 4. 4. 自粛ポーズ

党・政府幹部の腐敗に対する世間の風当たりが厳しいことから、自粛ポーズをとる者もいるようで、高級幹部の「新しい四つの基本原則」と題した謡が流行っている。

(26) 大吃不大喝,  
收礼不受贿,  
喜新不厌旧,  
风流不下流. (鏡-96-4)

大いに食ってもたらふく飲まず  
謝礼は取っても賄賂は受け取らず  
愛人ができても古女房を厭わず  
カッコよく遊んでも下卑たまねはしない

言うまでもなく、どこまでが謝礼でどこからが賄賂であるかの線引きは難しく、役人のこうした言動が単なる自粛ポーズに過ぎないことを庶民は見



抜いている。同様に、宴会が酒抜き食事のみということも有り得ない。第四句は、「风流」が前節の最後の謡のように「粹な飲みっぷりやダンスやマージャンに長けていること」を表していると解釈すれば、「粹に遊んで下品な遊び方はしない」という意味にもとれるが、ここでは「女遊び」を指していると解釈できる。したがって、第四句は、「女遊びはしても妊娠させてトラブルをおこすことはない」という意味。この謡の真意は「大いに飲み食いはするし、賄賂も取るし、愛人をつくって古女房は顧みないし、女遊びが目にも余る」ということ。

(27) 爱财不贪财,

受礼不收賄,

吃喝不嫖賭,

风流不下流。 (九-96-1)

カネが好きでも欲張らず

謝礼を受け取っても賄賂は取らず

飲み食いはしても女遊びや賭事はしない

カッコよく遊んでも下卑たまねはしない

“爱财”も“贪财”も結局は同じこと，“受礼”と“收賄”も同様，“吃喝”だけで“嫖賭”しない幹部はいないし，“风流”は“下流”に通じる。

(28) 风流不下流,

情留种不留,

潇洒不乱撒,

小贪不大偷。 (争-96-2)

カッコよく遊んでも下卑たまねはしない

情を移しても子種は残さない

粹な付き合いをしても子種はまかない

少々は欲張ってもガッポリ盗ったりはしない

“留种”は「種をとっておく」，“撒”は“撒种”で「種をまく」という意味であり、この謡の第一句、第二句、第三句はいずれも「上手に女遊び

をしても妊娠させたりはしない」という内容である。

(29) 大吃不大喝,  
打牌不賭博,  
跳舞不貼面,  
出差帶小婆。 (争-96-2)

大いに食ってもたらふく飲まない  
マージャン打っても賭事はしない  
ダンスをしても顔をくっつけない  
出張の際には愛人を同伴する

第一句から第三句は痛烈な皮肉であり、たらふく飲み食いするし、大金を賭けてマージャンを打つし、ダンスの際には下品な行為をする、とうたっている。

反腐敗闘争は、一九八二年、八六年、八九年、九三年と数年おきに繰り返されてきたが、余り成果があがらず、九四年には“举报电话”(告発ホットライン)が設置され、民衆は幹部の腐敗、汚職を電話で告発できるようになった。そのため、幹部の公費による飲み食いの手口が巧妙化してきている。

(30) 以个人名义订餐的多了,  
以单位名义订餐的少了;  
以现金支付的多了,  
使用支票支付的少了;  
部委机关附近和市区中心吃喝玩乐的人少了,  
去城乡结合部餐饮娱乐场所的人多了;  
大模大样公开吃喝的人少了,  
偷偷摸摸地吃喝的人多了。 (鏡-95-10)

個人の名義で宴会を予約することが多くなった  
職場の名義で宴会を予約することは少なくなった  
現金で支払いをすることが多くなった

小切手で支払いをすることは少なくなった  
役所の近所や市の中心で遊興にふけることが少なくなった  
市と農村の境界にある遊興施設へ行く人は多くなった  
これみよがしに飲み食いする人が少なくなった  
こっそりと飲み食いする人は多くなった

『半月談』に掲載された読者からの投書もこうした事実の存在を訴え、幹部による飲み食いの風潮は少しも収まってはいない、と嘆いている。

#### 河南省 尚新嬌

最近市の繁華街にある一軒のレストランの前を通りかかったところ、その門前が異常に寂れており、以前は繁盛していたのに、と不思議に思いました。・・・略・・・ある日、友人とおしゃべりをしていて、そのわけを納得しました。今ちょうど上層部が力を入れて飲み食いを取り締まっており、しかもそのレストランは役所から目と鼻の先にあります、このような時期にそこへ行って飲み食いする者はいない、とのことでした。

私は片田舎に住んでいますが、ある日、路地の入り口に一軒のレストランが開店しました。構えを見ただけで立派な店だとわかりました。果たして、ベンツやクラウンなどが次々とやって来て、片田舎のレストランは大繁盛です。

前後二つの出来事を照らし合わせてみて容易に理解できることは、公費での飲み食いはまだ続いており、「戦術」を変えて市の繁華街から郊外へ移動し、地上から地下へ潜るという隠蔽工作を行っただけのことなのでした。・・・略・・・（『半月談』一九六六年第二十一期，pp. 62-63）

## 4. 5. 御し難い公僕

次の謡は、国家の主人公である国民が公僕である役人の無軌道ぶりに対して手の下しようがない現実を、皮肉を込めて巧みに表現している。

(31) 一管不住仆人的数量；

二管不住仆人的超标准住房；

三管不住仆人的大吃大喝；

四管不住仆人的异性按摩；

五管不住仆人的跳舞赌博；

六管不住仆人的豪华汽车；

七管不住仆人的公款旅游；

八管不住仆人的子女出国留学；

九管不住仆人大操大办婚丧嫁娶；

十管不住仆人说什么就是什么。 (九-96-10)

一つ、召使いの数が増えるのを制御できない

二つ、召使いが基準を超えた住宅に住むのを制御できない

三つ、召使いがたらふく飲み食いするのを制御できない

四つ、召使いがマッサージ嬢のもとに通うのを制御できない

五つ、召使いのダンスや賭事を制御できない

六つ、召使いが高級車に乗るのを制御できない

七つ、召使いが公費で観光旅行するのを制御できない

八つ、召使いの子供が海外留学するのを制御できない

九つ、召使いが派手に冠婚葬祭を行うのを制御できない

十、召使いの一言で何でも決まってしまうのを制御できない

“仆人”（召使い）は「役人」のことであり、「召使いの数がコントロールできない」とは、「やたら役所の組織が肥大し、役人の数が自己増殖的に増えていくのを国民はいかんともし難い」ということ。公費で自宅を建てたり、自宅の改築をしたりする風潮には目に余るものがあり、中央紀律

検査委員会，國務院，國家計画委員会などが繰り返し違法行為を禁じる通達を出しているが，余り効果はない。また，一九八五年以来，省，地区，県などの幹部が競って高級車を購入するようになった。その費用は企業へ割り当てたり，甚だしい場合には教育予算（教師の給料）を流用する（承嬰[1995]p. 62）<sup>(10)</sup>。中国大陸の大都市でマッサージ業が流行り始めたのは一九八〇年代末期のことであり，客のほとんどが男性でマッサージ師のほとんどが若い女性であることから“异性按摩”（異性のマッサージ）と呼ばれ，不健全なマッサージ・ルームが多い。

偉い人の言葉が全てを決定するため，中国は法治国家ではなく「人治」国家であるといわれる。次の謡は法律より上司の言動のほうが重視される現状を風刺している。

（32）不怕党纪国法，

只怕上司追查；

上司若不追查，

放心贪污腐化。（半-96-18）

党の紀律や国の法律など恐くない

恐いのは上司の追求だけだ

もしも上司が追求しないのであれば

安心して汚職ができるというものだ

次に，相手によって態度を変える役人の体質を嘲笑した謡を紹介したい。

（33）上级面前十分克制，

同事面前十分放肆，

美女面前大胆行事，

老婆面前低三下四。（争-96-2）

上司の前ではとても控え目

同僚の前ではやりたい放題

美女の前では大胆に事を行う

妻の前では平身低頭

“大胆行事”は大胆に不倫に走ることであり、その反動で山の神の前では小さくなる。

(34) 対上级甜言蜜语,

对舆论豪言壮语,

对外宾花言巧语,

对群众谎言假语,

对同事流言蜚语,

对下属狂言恶语,

对情妇温言细语,

对自己胡言乱语。 (争-96-2)

上司に対しては齒の浮くようなおべっか

世間に対しては大言壮語

外国からの客に対しては巧みな言葉

民衆に対してはでたらめばかり

同僚に対しては流言飛語

部下に対しては法螺を吹いたり怒鳴ったり

愛人に対してはとろけるような言葉

自分に対してはたわごとを言う

(35) 官出数, 数出官,

级级加水, 水到渠成;

上压下, 下骗上,

层层加码, 马到成功。 (鏡-96-9)

役人が数字をつくり, 数字が役人を出世させる

各級ごとに水増しをするので, 事は自然にうまく行く

上が下に圧力をかければ, 下は上を騙す

各段階ごとに数字を加えるので, すぐに物事はうまく行く

上司が喜びそうな数字を報告することが出世の秘訣である。村, 郷, 県, 省, 中央と一段上がるごとに報告書の数字が大きくなっていく。一人っ子

政策の違反者数や貧困家庭数などであれば逆に少なくなっていく。うその数字を報告するのは地方政府だけではない。例えば、一九九六年六月二十五日に『改革の情勢と社会心理』と題する調査報告が公開された。この調査は、國務院弁公庁の委託によって国家体制改革委員会が、九六年一月から五月にかけて全国の四十都市で八千戸の住民を対象に実施したものである。ところが、これには省級幹部にのみ配布された内部機密版が存在した（岳山[1996]p. 18）。公開された報告と内部機密版の報告とでは、調査結果の数値が異なっている。参考までに調査項目の幾つかを取り上げて、両者を比較してみよう。

#### 1)社会的風潮

公開版：不満85.9%

内部版：不満及び非常に不満92.3%

#### 2)物価

公開版：不満80.2%

内部版：不満及び非常に不満91.3%

#### 3)貧富の格差

公開版：不満80.1%

内部版：不満及び非常に不満88.9%

#### 4)党・政府部門の風紀

公開版：非公開

内部版：不満及び非常に不満73.5%

#### 5)腐敗現象に対する見解

腐敗の継続的蔓延は党と国を滅亡へと導く

公開版：46.1%

内部版：83.5%

#### 6)反腐敗運動について

きちんと法律を制定して腐敗を厳しく取り締まることを要求する

公開版：32.1%

内部版：78.9%

7)社会の治安状況について

公開版：満足20.6%，不満足は非公開

内部版：満足9.8%，不満足88.7%

(岳山[1996]pp. 18-20より抜粋)

中国の統計は世界一信用できないと言われているが、これらの数値はその一端を窺わせてくれる。

5. 社会現象全般にかかわる謡

5. 1. 腐敗と社会不安

中国の経済改革開放は、一九七九年に鄧小平が提起した四つの基本原則を堅持することを前提として、これまで幾度かの修正を経て今日に至っている。すなわち、中国共産党は「計画経済を主とし、市場調節を従とする（一九八一年六月，第十一期六中全会），「計画のある商品経済」（一九八四年十月，第十二期三中全会），「計画と市場の内在的統一」（一九八七年十月，十三回全国代表大会），「計画経済と市場調節の結合」（一九八九年六月，第十三期四中全会），「社会主義市場経済」（一九九二年十月，第十四回全国代表大会）といった目標を掲げてきた（朱東平[1994]p. 139）。いずれも資本主義的経済システムを目指したものであるにもかかわらず、用語上は資本主義的部分が継子扱いされ、実体の伴わない社会主義的部分が目標を正当化する役割を担ってきた。次の謡はそうした点を揶揄している。

(36) 根深蒂固的封建主义,

不三不四的社会主义,

羞羞答答的资本主义。 (争-95-10)



根強く残る封建主義  
 ろくでもない社会主義  
 肩身の狭い資本主義

根強い封建主義とは、新中国成立後一掃されたはずの迷信が開放政策の採用に伴い復活したことを指している。農村の幹部の中には、自身の前途のみならず職務遂行上の問題に関してまで古い師に占ってもらう者もいる始末で、ゆゆしい社会問題になっている。

開放政策以前には、「鉄の茶碗」（食いはぐれのない職業）として優遇されてきた国有企業の労働者に昔日の面影はない。現在では、少しでも才覚のある男は給料取り（＝国有企業の従業員など）にはならず、自分で商売を始める。女性も給料取りと結婚しようとは思わない。次の謡はオチがよい。

(37) 好男不上班,  
 好女嫁老板,  
 不三不四坐机关. (鏡-96-2)  
 良い男は給料取りにはならない  
 良い女は社長の嫁になる  
 ろくでもないヤツが役人になる

不倫は醜悪な行為ではなく、愛人を持つことも愛人になることも誇るに値する行為である、といった風潮が広まっているとの指摘もある（亦兵[1995b]p. 40）。次の流行り謡がそうした風潮の存在を裏付けてくれる。

(38) 官无小蜜权太小,  
 民无小蜜钱太少;  
 娘做小蜜叶子活,  
 女做小蜜盘子好. (鏡-95-12)  
 役人で愛人のいないヤツは権力がないからだ  
 民間人で愛人のいないヤツはカネがないからだ  
 女の子で愛人になるのはスタイルがよいからだ

女の子で愛人になるのは美人だからだ

愛人を持つ男は権力かカネのあるヤツで、愛人になる女性はスタイルがよくて美人である、と擲論している。もちろん、権力もカネもない庶民の作である。“娘”は現代中国語では「お母さん」という意味であり、決して「娘」ではないが、ここでは“小姑娘”（若い女性）の意味で用いている。“叶子活”は身体つきがしとやかで美しいことであり、“盘子”は顔を意味している。

(39) 新幹部在腐化,

老干部等火化,

农民离村自由化,

工人阶级苦菜花. (争-95-10)

新しい幹部は腐敗しつつある

年とった幹部は火葬になるのを待っている

農民は村を離れて自由になった

労働者階級は生活が苦しくなった

現在農村には一億人とも二億人ともいわれる余剰労働力が存在し、それがいわゆる「盲流」となって、沿海地方の都市部に流れ込んでいる。こうした現象を“离村自由化”と嘲笑している。また、国有企業の倒産、身売り、生産停止・縮小の増加に伴い、レイオフや給料の遅配・減額などが労働者を直撃し、彼らの生活は苦しくなる一方である。

次の謡は各地方に特徴的な事象を巧みに盛り込んでおり、面白い。

(40) 到了北京, 知道自己官小;

到了东北, 知道自己胆小;

到了上海, 知道自己穿得不好;

到了深圳, 知道自己钱少;

到了海南岛, 知道自己身体不好. (争-96-2)

北京へ行けば自分の身分が低いことがわかる

東北へ行けば自分の肝が小さいことがわかる

上海へ行けば自分の服装がひどいことがわかる

深圳へ行けば自分のカネが少ないことがわかる

海南島へ行けば自分の身体が弱いことがわかる

北京にはきら星のごとく高級官僚がいるので、地方から来た役人は己の地位の低さを実感する。東北地方は重工業が発達しており、国有企業の数も多いが、経営不振のため多数の失業者を生み出している。彼らの中には路上強盗などの犯罪に走る者も相当数存在し、当該地域の都市や農村の治安を悪化させている。八〇年代末期にも東北出身者の強盗団「東北虎」「南下支隊」などが全国の幹線鉄道を襲い国中を震撼させたことがある。上海は豊かで流行の先端を行く都市であり、当然市民の服装も垢抜けている。深圳経済特区の繁栄は言うまでもない。海南島の主要都市にはいかがわしい商売に従事している女性が満ち溢れており、相手をするとも身が保たない、といった意味である。

東北地方では路上強盗などの犯罪に走る者が多数いると述べたが、治安の悪化は全国的な現象であり、次の謡がその事実を裏付けてくれる。

(41) 要想富，请上路，

抢劫也有专业户，

复员哥哥组队伍，

抢了水路抢旱路，

抢了公路抢铁路，

一路抢进城里去，

刀子下面出金库，

司令就在党支部。 (争-96-2)

豊かになりたければ路上へお出かけを

略奪を専門にやっているヤツもいる

復員した兄チャンたちが徒党を組んで

水路で略奪したら陸路で略奪する

道路で略奪したら鉄道で略奪する

略奪しながら町へ入って行く  
 ナイフちらつかせ金庫を開けさせる  
 ボスは党支部の中にいる

解放軍を除隊しても民間の再就職先を見つけるのが難しく、武器を調達して手っとり早く集団強盗に走ってしまう者も多い。最後の句がいみじくも指摘しているように、地方の党・政府幹部が犯罪集団とつながりを持っていることは珍しくない。

一九九七年二月十二日に、中央社会治安综合治理委員会が内部資料として披露したところによると、一九九六年に全国で四百三万五千二百二十件余りの刑事事件が発生した。そのうち、集団強奪事件が十七万五千二百件余り、暴力・殺人事件が二十万二千五百件余りを占める。同年の経済犯罪事件は八十一万二千七百七十件余りで、うち百万元以上の経済犯罪は一万一千二百三十件であった。（関捷[1997]p. 22）

## 5. 2. 十五等人

一九七〇年代末から八〇年代初めにかけて東北地方の農村でうたい始められた「十等公民」の謡は、その後様々なヴァージョンを生み出し、今日に至るまで息長くうたい継がれてきている。最近では「十五等公民」にヴァージョン・アップしたものもある。

- (42) 一等人，掌实权，批条划圈就来钱；  
 二等人，是官倒，倒了批文倒指标；  
 三等人，有后台，弄点名堂就发财；  
 四等人，大盖帽，吃了原告吃被告；  
 五等人，交警队，马路旁边吃社会；  
 六等人，管车船，马达一响就要钱；  
 七等人，当导游，年年月月吃回扣；  
 八等人，干个体，宰了老张宰老李；

- 九等人，当电霸，不给好处就抽闸；  
 十等人，手术刀，拉开肚皮要红包；  
 十一等人，管收税，不塞票子你倒霉；  
 十二等人，是教师，一年四季欠工资；  
 十三等人，老大哥，工厂关门没吃喝；  
 十四等人，作田佬，交了粮食收白条；  
 十五等人，是盲流，不知何处是尽头。（争-96-2）

- 一番手は実権を握っている者，書類にサインすればカネが入る  
 二番手は官僚ブローカー，決裁書類や計画目標の転がしをやる  
 三番手は後ろだてのある者，ちょっと工夫すれば大金持ちに  
 四番手は裁判官，被告や原告を食い物に  
 五番手は交通警察隊，路の傍らで世の中を食い物にする  
 六番手は車や船の所有者，エンジンかかればカネを取る  
 七番手は旅行ガイド，年がら年中バックマージンがある  
 八番手は個人営業，誰彼かまわずだまし取る  
 九番手は電力会社の偉いさん，甘い汁すわせなきゃ電気を止める  
 十番手は外科医，腹を切り開き心付けを要求  
 十一番手は税務署員，賄賂渡さなきゃひどい目に遭う  
 十二番手は教師，一年四季を通じて給料が遅配  
 十三番手は工場労働者，工場が倒産し飯が食えない  
 十四番手はお百姓，食糧を納めて空手形もらう  
 十五番手は盲流，どこが終点なのかわからない

官僚ブローカーは，例えば，自分で決裁して品薄の政府統制物資を取り寄せ，自分で決裁して横流しするなど，お手盛りで売買を行うので，労せずして儲かる。十一番手までは何らかの役得のある地位・職業で，十二番手以下の教師，工場労働者，農民が社会の最下層に位置づけられる人々である。盲流をなしているのは貧しい農民である。

なお，農民に対する“白条”（空手形）での支払い，或いは教師に対す

る給料の遅配に関しては岡[1995]を参照されたい。

## 6. 結び

社会主義中国において、権力者は失脚しない限り、死の瞬間まで権力を保ち続けるのが通例である。鄧小平はその死の二年半前に完全に政治の舞台から退いたが、彼自身の意志にかかわらず、その存在そのものが江沢民政権に微妙な影響力を与えていたことは否定できない。本論では、この二年半を鄧小平政権から江沢民政権への移行期として捉え、庶民の恰好の憂さ晴らし手段である「流行り謡」を通じて、当該時期の中国社会に特徴的な現象を紹介した。

反腐敗闘争が繰り返されているにもかかわらず、党・政府幹部の腐敗は止む気配がないどころか、ますます腐敗の程度が大きくなり、汚職の手口が巧妙化しているように思われる。こうした事実は、庶民の生の声である流行り謡に確実に繁栄されている。ここに集録した四十二篇の流行り謡のうち、性的腐敗現象に触れているものは十七篇にもものぼり、性的モラルの崩壊が急速に進んでいることが理解できる。岡[1995]において、すでに賄賂の中身が「タバコ→酒（の接待）→値のはる品物→現金（札束）→女性」とエスカレートしている点を指摘したが、ここ数年で完全に行き着くところまで行き着いたという印象を受ける。他方、贈収賄が公然とは行われなくなり、手の込んだものへと変わってきているが、民衆はそうした変化をも見のがしてはいない。

このように、腐敗が蔓延している中国社会ではあるが、建設的な新しい動きも見うけられる。一例を挙げると、一九九三年には上海浦東新区で中堅幹部が公募されたのを皮切りに、現在では二十以上の省と市で幹部の公募が実施されており、コネではなく実力で勝負する幹部も登場している。この試みが拡大されれば将来的には幹部の腐敗現象に歯止めをかけること

も不可能ではないが、現段階ではこうした幹部はごく少数に過ぎず、目につくのは腐敗幹部の姿ばかりである。

第四章で引用した調査報告『改革の情勢と社会心理』（内部機密版）によれば、党と政府の反腐敗闘争に対して、四十二・六％の民衆が疑問を抱いており、信頼できると回答した者を上回る。そして、六十一・三％が腐敗現象は社会の安定に最大の災いをなす要因の一つであると答えている。江沢民政権にとって、反腐敗闘争はやらざるを得ないが、徹底して行えば党をも滅ぼしかねず、まさにもろ刃の剣である。

五、六年前まで、わが国の中国関係の新聞報道において、流行り謡は全く注目されていなかったが、この近年は流行り謡を取り上げ、中国の民情を伝える記事も見られるようになった<sup>(11)</sup>。記者が政府スポークスマンの発表や消息筋からのニュースばかりでなく、民衆の声を収集し報道しようとしている姿勢が伝わってくる。これまでは中国研究者などのごく一部の人間の間でのみその存在が知られていた流行り謡であるが、今後、中国の社会情勢を分析するための道具の一つとして積極的に利用されるべきであると考えられる。

#### 【注】

(1) 本論で取り上げた流行り謡のほとんどは、一九九五年と九六年に流行ったものであるが、一篇は一九九七年初頭のものであり、一九九四年以前の可能性のあるものも数篇混じっている。これらの謡は、一九九五年九月から一九九七年四月にかけて、主として香港で出版された雑誌から採集した。

(2) 王宝森の死に関しては、他殺の疑いもある。すなわち、累が及ぶことを恐れた他の高級幹部による口封じの可能性もある。例えば、次のような報道がある。「遺体のピストルの握り方にやや不審な点があったとされる」（一九九五年五月二日付『読売新聞』）。「こめかみに一発と

- 心臓にも一発命中しており、自殺とすれば理解し難い」(沙明[1995]p. 36)。このほか、施華[1995]や『亜洲週刊』(一九九五年四月二十三日号, pp. 24-25)なども他殺或いは自殺を強要された可能性を指摘している。
- (3) 弟や愛人、親しい人物らの営利活動に流用し、千三百万ドル以上の損失を与えた。(一九九五年七月五日付『朝日新聞』)
- (4) 地区は省の一級下で県の一級上の行政単位である。地区級幹部は解放軍でいえば師団長級である。
- (5) 例えば、亦兵[1995a]pp. 38-40。亦兵によれば、孔繁森は妻子の生活を顧みることなく、給料を全て孤児の養育などに充てた。(p. 40)
- (6) 三菱総合研究所[1996]p. 46に記載の「三十六枚の紅頭文件も口一つを塞げない」という日本語訳された謡に基づいて、張忠任氏(中国社会科学院助教授、現在岡山大学大学院文化科学研究科博士課程に在籍)に中国語の元謡を確認した。
- (7) 一九九五年四月二十八日付『朝日新聞』に掲載の日本語訳された謡「北京市党委のメンバーを調べると、全部が汚職罪に該当する。処刑後に調べ直しても、冤罪は一つもない」に基づいて、前出の張忠任氏に中国語の元謡を確認した。
- (8) 一九八九年以来、三十歳近く年下の愛人・何平を高級ホテルに囲い、市の財政で豪華な別荘を建て、愛人の遊興に供したりしたことを指す。
- (9) 張正憲[1997]は、都市部のレイオフされた労働者数を九百万人としている。(p. 14)
- (10) 承嬰[1995]は、一九八〇年代以降、中央(党及び政府)が出した反腐敗文書六十七件をリスト・アップし、公費による飲み食い、公用車の購入、住宅問題、公費による海外旅行や国内観光旅行などの項目別に整理している。
- (11) 『朝日新聞』の目に止まった記事を例にとると、堀江義人特派員は「はやり言葉」として一篇(一九九四年三月十八日付)、また、同特派



員は「ざれ歌」として二篇（一九九五年四月二十八日付），加藤千洋・北京支局長は「口伝えではやらせる語呂のよいしゃれ言葉を順口溜（シュンコウリュウ）という」，と説明した上で一篇紹介している（一九九七年三月九日付）。

【付記】

略号で示した謡の出所は次の通り。

九-〇-〇：『九十年代』〇年〇月号（香港）

争-〇-〇：『争鳴』〇年〇月号（香港）

鏡-〇-〇：『鏡報月刊』〇年〇月号（香港）

半-〇-〇：『半月談』〇年〇期（北京）

【引用文献】

梁嬰[1995]「中共反貪腐文件総覧」『九十年代』1995年9月号, pp. 62-65.

閔捷[1997]「刑事案：四〇〇〇〇〇〇」『争鳴』1997年4月号, pp. 22-23.

郭啓[1997]「人人談下崗 就業有危機」『九十年代』1997年4月号, pp. 20-21.

黎自京[1996]「機密報告顯示幹部憂‘鄧後’」『争鳴』1996年9月号, pp. 12-13.

李勤[1997]「關鍵在落實」『半月談』1997年第6期, pp. 4-5.

李永翹[1996]「‘簾政新口号’析」『鏡報月刊』1996年4月号, pp. 36-37.

劉浩良[1996]「一則順口溜的啓示」『半月談』1996年第18期, p. 52.

羅孚[1996]「北京，没有太平可以粉飾」『九十年代』1996年3月号, pp. 26-27.

駱柯稻[1997]「中紀委，檢察院頭頭均請辭」『九十年代』1997年5月号, p. 22.

明蕾[1995]「孔繁森對王寶森」『争鳴』1995年9月号, p. 28.

----[1996]「怎一個‘講’字了得?!」『争鳴』1996年9月号, pp. 22-23.

- 三菱総合研究所（編）[1996]『中国最高指導者 WHO'S WHO』蒼蒼社
- 岡益巳[1995]『現代中国と流行り謡 ---- 開放政策がもたらした社会の歪み』御茶の水書房
- [1997]「開放政策下の流行り謡の特徴」『岡山大学経済学会雑誌』第28巻第4号, pp. 171-202.
- 秦儒海[1996]「世紀末民謡聯唱」『争鳴』1996年2月号, pp. 35-40.
- 秋子[1995]「大陸貪官犯罪心志録」『鏡報月刊』1995年11月号, pp. 34-35.
- 沙明[1995]「震撼北京的倒陳大行動」『九十年代』1995年6月号, pp. 35-37.
- 尚新嬌[1996]「喫喝躲進深巷処」『半月談』1996年第21期, pp. 62-63.
- 施華[1995]「王宝森死因成疑」『九十年代』1995年5月号, pp. 36-37.
- 蘇紹智[1995]「社会主義国家貪汚腐敗探源」『争鳴』1995年9月号, pp. 52-57.
- 汪希祐[1996]「北京档案」『九十年代』1996年1月号, pp. 76-77.
- 王征[1993]「明查暗访大陸按摩業」『九十年代』1993年5月号, pp. 6-11.
- 吳名柳[1996]「中国人民到底站起来了没有？」『九十年代』1996年10月号, pp. 32-35.
- 荀踐[1995]「中共公布陳希同四大錯誤」『鏡報月刊』1995年11月号, pp. 28-30.
- 亜洲週刊編集部[1995]「廉政風暴中棄車保帥？」『亜洲週刊』1995年4月23日号, pp. 24-25.
- 羊金[1995]「順口溜, 斥腐敗」『鏡報月刊』1995年9月号, p. 85.
- 野潭[1995]「江沢民首次進京視察 北京市反腐又有大案」『鏡報月刊』1995年12月号, pp. 22-23.
- [1996a]「灰色腐敗和陳希同大案」『鏡報月刊』1996年2月号, pp. 34-35.
- [1996b]「從市井俗諺看大陸世風」『鏡報月刊』1996年9月号, pp. 33-

35.

夷介生[1996]「大陸色情業為何屢禁不止？」『鏡報月刊』1996年12月号，  
pp. 42-43.

亦兵[1995a]「婦人之仁非為政之道」『鏡報月刊』1995年11月号，pp. 38-  
40.

----[1995b]「中共高幹們是不是又該看看戲了？」『鏡報月刊』1995年12  
月号，pp. 39-41.

----[1996]「那麼多‘洗髮屋’究竟在洗甚麼？」『鏡報月刊』1996年12月  
号，pp. 13-15.

岳山[1996]「透視兩個版本的文件」『争鳴』1996年8月号，pp. 18-20.

張正憲[1997]「挺起你的脊梁來」『半月談』1997年第7期，pp. 14-17.

趙劍[1995]「用公款喫喝玩樂的腐敗現象一瞥」『鏡報月刊』1995年10月号，  
pp. 40-42.

鐘広[1995]「大陸順口溜三則」『争鳴』1995年10月号，p. 93.

朱東平[1994]『現代中国經濟』第十五章，佐々木信彰（編），東方書店，  
pp. 139-152.

Chinese Society Observed through Popular Jingles  
in the Transitional Period  
from Deng Xiaoping to Jiang Zemin

Masumi Oka

In my previous works I tried to analyze the various phases of the Chinese society through six hundred popular jingles or “min-yao” under the regime of Deng Xiaoping, and also made it clear that the unprecedented boom of popular jingles was caused by the expansion of social contradictions and partial lifting of the prohibition of jingles critical of the regime.

Deng Xiaoping died in February 1997 after two and half years of his ‘complete retirement’ from the political world in September 1994. It is understood that this is the very period when Jiang Zemin carried out the succession of power from him.

In the present study, I clarify social phenomena seen through forty-two jingles in this transitional period. They indicate that China has a deepening tendency of corruption not only among aristocratic communists but also in the whole society. The sensational suicide of Wang Baosen, an ex-deputy mayor of Beijing, shows us that corruption prevails among top leaders of the country as well. This study also reveals that morality on sex has deteriorated on the nationwide scale during these years.